

(3) 子供が主体的に地域にかかわっていく教育活動の実践

① 子供が主体的に地域にかかわっていく教師の支援の工夫

ア. 子供が主体的に活動できるようにするための単元計画

子供たちが学習を進めていく上で、ボランティアティーチャーや施設の人たちと何度も繰り返し交流していくこと（体験）を通すことで、自分の課題、追究方法を振り返り、修正できるようにした。

イ. 子供たちの主体的な活動を促す支援の工夫

自分の課題を追究していくにあたって、ボランティアティーチャーの方々に積極的に働きかけることができるように支援してきた。

〈FAXを通して、ボランティアティーチャーと連絡を取り合う子供たち〉



② 子供が主体的に地域とかかわっていく教育活動の実践

子供たちの心のバリアを取り除くためには、机上だけで考えていくのではなくて、子供たちの要求に応じて、何回も老人や障害者との交流を図っていけるよう支援してきた。その際、自分たちの思いだけで交流していくのではなく、施設のボランティアティーチャーの方と絶えず子供たちが連絡を取り合いながら、活動を進め

ることができるように配慮してきた。



〈ボランティアティーチャーとのやりとり〉

C : 一緒にドッジボールをしたいんですけども、じゃんけんは、わかりますか。

VT : 誰かが補助にまわると分かるわね。

C : 一緒に料理をしたいのですが、材料を一緒に買いに行くことはできますか。

VT : お金を数えられない人が多いけれども、一緒になら大丈夫だと思うわ。

〈交流を通しての子供たちの感想〉

○ 更生園との交流を通してのMさんの心の変容

〈更生園での初めての交流〉

最初わたしは、更生園の人たちと話をしたりするのなんか、かんたんだと思っていたけど、こわくて全然できなかった。逆にわたしは、障害者の人をさけているような気がします。

〈2回目の交流〉

一番最初に会ったときは、自分からさけていたような気がしました。でも、2回目に会ったときは、1回目よりは、だいぶ話もできたけれど、やっぱり少し、ドキドキしてちょっと離れるときもあります。